

特定非営利活動法人まちづくり情報センターかながわ
2020年度（2020年8月1日～2021年7月31日）
事業計画書

I. 2020年度の基本方針

◆今後の方向性

アリスセンターの2020年度（2020. 8～2021. 7）は、基本的には2019年度の事業の方向を継続していく予定です。新型コロナの問題で「分断社会」や貧困・格差がより顕在化したことが、昨年度その実態を把握するために行ったアンケート調査で明確となりました。そこでアリスセンターとしては「分断社会」を打破する活動、NPOや市民社会が必要としている「アドボカシー」の視点を重視し、事業実施型のNPOではなかなか取り組めない課題提起型のNPOを目指して活動を進めていく所存です。

具体的には下記のような活動を進めていきます。

1. 新型コロナ感染拡大への取り組み
2. アリスセンター「らびっとにゅうず」の発行
3. コロナ禍において顕在化した課題と打開策に関する情報交換会
4. 市民政策のネットワークづくり（協働で提案やアンケートの実施）
5. 会員のアリスセンター活動へのゆるやかな参加の仕組みづくり

II. 2020年度の事業一覧

| 事業・プロジェクト | 定款における事業項目 |
|----------------------------|--------------------|
| (1) 新型コロナ感染拡大への取り組み | 1. 政策提言 4. 調査研究 |
| (2) 「らびっとにゅうず」（メールマガジン）の配信 | 3. 情報収集と提供 |

| | |
|----------------------------------|----------------------------|
| (3) コロナ禍において顕在化した課題と打開策に関する情報交換会 | 1. 政策提言 5. 講座、研修等の企画・運営 |
| (4) 市民政策のネットワークづくり | 8. 市民団体等に対する支援・助成 |
| (5) 会員のアリスセンター活動への緩やかな参加の仕組みづくり | 9. その他 |

Ⅲ. 各事業の内容

(1) 新型コロナ感染拡大への取り組み

コロナはなかなか収まる気配を見せません。この問題が長期化してくるとNPOと要支援者の現状はいよいよ厳しい状況が続くことになっているのではないのでしょうか。そのニーズを把握するために昨年度に引き続き、アンケート調査を企画する予定です。時期としては11月ごろを考えています。その結果を踏まえこれも昨年度に引き続き、政策提案を県内各自治体に行う計画を考えています。昨年度の政策提言では横浜市がコロナ対策の助成金を新設したなどの効果がありました。(横浜市市民公益活動緊急支援助成金)これですいぶん助かったNPOや任意団体はあったのではないのでしょうか。他市町村にもこの事例も紹介しながら政策提言をしていくことは有用なことと考えます。

(2) アリスセンター「らびっとにゅうず」の発行

コロナのためイベントなどは中止か延期が多い中、「社会の分断」や貧困格差に関わる打開策につながるような情報を積極的に集めていきます。その情報をもとに月1回程度、らびっとにゅうず(メールマガジン)を配信します。

(3) コロナ禍において顕在化した課題と打開策に関する情報交換会

アンケート調査や情報を収集した中でコロナ時代に向けて新しい取り組みをしている任意団体やNPOも存在しています。また自治体でも新しい取り組みも見られます。そういった団体などに集まっていただき課題と打開策について情報交換をしてはどうかと考えています。リアルに集まるのが難しいのでオンラインイベントで行うことを検討します。

(4) 市民政策のネットワークづくり（協働で提案やアンケートの実施）

アリスセンターが昨年度アンケート調査や政策提言を行ったことで他団体からネットワークを作りそのような活動をしていかないかというお誘いもありました。今後市民政策のネットワークづくりは重要なアリスセンターの役割でもあると考えますので徐々にその活動も進めていきます。協働でアンケートや政策提案を行っていきたいと考えます。

(5) 会員のアリスセンター活動へのゆるやかな参加の仕組み

アリスセンターの会員には多様な専門知識をもっていたり、多様な活動を行っている団体も参加しています。ゆるやかな参加の仕組みを検討してアリスセンターの活動を会員と一緒に進めていけないかと考えています。会員の意見も聞きながら検討していきます。今年度は、らびっとにゆうずの情報リソースを増やすためにアリスセンター会員等から情報提供応援会員を募集します。